

日本建築学会大賞

「建築環境工学、特に光環境工学の研究・教育と、
その発展に対する貢献」の受賞

理事長 松浦邦男

この度、2006年日本建築学会大賞として表記をいただくことが出来た。（建築雑誌2006年8月号p.047）1952年3月京都大学を卒業し、大学院（旧制度）に入学し、以来54年間、前田敏男先生のご指導を受けてきた。特に昼光照明、照明理論など光環境工学の研究・教育を行ってきた。

大正の時代から昭和の初めにかけて長方形中庭等の採光について、木村幸一郎、渡辺要、平山嵩、等の諸研究者が実験的研究を行ってきた。前田先生はこれらの成果に物足りず、筆者に相互反射問題の数値解放を試みることを勧められた。その他、たて形ルーバー・ヴェネチアンブラインドによる照度分布の計算法、一様拡散反射でない場合の相互反射の研究、その輝度計算法など、またドーム球場の全天候条件の光環境予測法を開発した。さらに国際照明委員会（CIE）の技術委員会TCの委員長として昼光計算標準化研究をリードした。

以上の功績により、1962年度の日本建築学会論文賞、1993年度照明学会賞、1995年CIE AWARDS（CIE賞）等を受賞した。これらの成果はひとえに前田敏男先生をはじめとする京都大学建築学系諸先輩のご指導によるものであり、ここに厚く御礼申し上げたい。

さらに、今回の建築学会大賞受賞に対して、多くの方々からお祝いの言葉をいただいたことについて、この場をお借りして深甚なる謝意を表する。